

Niigata University  
Campus Magazine

新大広報

# campus forum

NO. 141  
7月号

## 総合大学としての 新潟大学の魅力

学友会サークル・行事紹介

世界の都市

「ナントの町と歴史と」

健康コラム「自尊心の守りか」こちら就職部

キャンパスあれこれ

荻野久作博士主要論文集刊行記念講演会 / 農学部運動会  
教務課、サービス室、就職部の移転 / 村松ステーション / 大学を語る

私たちは、  
地域と世界に貢献することを  
表明しています。

## 国の方針は、 誠に厳しいものでありますが・・・

### 巻頭言

「国立大学は改革しなければならない」、私たちの周囲には大学改革を叫ぶ声が溢れています。耳に胼胝（たこ）が出来ると、いささか辟易している向きもあるかもしれません。

# 今こそ、英知を結集して 新しい新潟大学を つくりあげる好機



新潟大学長 荒川正昭


大学改革が必要であるという主張は、かなり以前から聞かれていましたが、最近の動きのきっかけは、平成十年秋に出された大学審議会の答申、「二十一世紀の大学像と今後の改革方策について」であります。本学では、この答申の中間まとめが発表された同年夏、学内の委員会が合同してワーキンググループ（WG）をつくり、一つの検討材料をまとめました。ついで、十一年春過ぎから部局長が勉強会を始め、手分けをして全国の大学を視察し、秋には部局長会議のもとに大学改革検討WGをつくって、さらに検討を進めました。十二年春、第一次報告を公表しましたが、現在も検討を続けています。これとは別に、学長のもとに若手の教授の方々からなる将来構想等研究会を置いて、大学の将来構想について提言をいただいております。今年度は、これらの提言を全学的に検討して、新潟大学の発展に向けて努力する大変重要な時期で

あります。

平成十一年五月、大学関連の法案が改正され、本学においては十二年四月から学外有識者から成る運営諮問会議がおかれ、すでに三回開催されました。また、評議会、教授会の設置および審議事項についても、明文化されました。さらに、大学評価・学位授与機構が発足し、今春より国立大学の教育、研究、社会貢献などについて評価を始めています。本学でも、学内措置として学長特別補佐、評価委員会、研究推進検討専門委員会などが設置され、活動を開始しています。また、大学校費の運用についても大きく変わり、本学でも5%を競争的資金（project 推進経費）として扱うことになりました。

一方、国立大学の独立行政法人化については、平成十一年秋、文部科学省（当時は文部省）はその在り方を検討することを表明しました。国立大学協会（国大協）は、独立行政法人通則法のもとでの法人化には反対であることを表明し、現在でもその立場は変わっていませんが、文部科学省が設置した調査検討会議には、出来る限り大学側の意見を反映したいと考え、委員を送っています。国大協の中にも、設置形態検討特別委員会を設けて検討し、今回、その総括を公表しましたが、六月の国大協の総会において大筋では了承されました。

上述の国大協総会について国立大学長会議が開催され、文部科学省より国立大学の構造改革についての方針が示されました。その内容は、（1）国立大学の大学・学部を再編・統合して、大学の規模と数を大幅に削減する、（2）運営に民營的手法を導



入して、早期に法人化を行う、(3)第三者評価に基づいて競争的資金を導入し、国公私トップ30を世界的水準の大学にすることに要約されますが、大変衝撃的なものがあります。しかも、一県一大学という原則にとらわれることなく、大胆に再編・統合をすすめ、今年度内に具体的な方向を決定したいとのことです。法人化については、絶対反対という立場の方々もありますが、国の方針として、大学・学部の再編・統合と法人化の早期実施を示したもので、この流れは止まらない客観情勢にあると思います。

これまで3年間、私達は本学の将来像について、法人化問題とは直接関係なく議論を進めて参りました。すでに実施している改革として、二名の副学長(総務・企画・広報・学務、研究・国際交流を担当)に加えて、5名の学長特別補佐(法務、就職、教育、財務、病院を担当)を置いて、学長の仕事をサポートしていただいておりますが、私の大きな力となっています。また、評価委員会による学内評価の歩みは、中央の大学評価・学位授与機構による大学評価にも対応出来るものであり、今後問題にもなりかねないマンネリ化や評価疲れを避け、学内における客観的評価システムの確立を目指してほしいと思います。学長特別補佐、評価委員長は、大学教育開発研究センター、留学生センター、地域共同研究センターのセンター長とともに、新しく評議会に加わっていただき、評議会の機能の充実が図られました。さらに、研究推進検討専門委員会は、本学の特色ある研究を推進するため、全学的な立場から検討していただきたいと思います。

私達は、本学の理念・目標として、先端的で国際水準にある、他に追従しない独創的な研究に挑戦する我が国の基幹大学、同時に地域における拠点大学となることを目指して、有為な若い人材を育て、優れた研究を推進し、地域と世界に貢献することを表明しています。国の方針は誠に厳しいものではありますが、私達のこれまで歩んできた改革の道筋、これから進むべく検討している方向は、この困難を乗り越えることが出来るものと信じています。

現在、大学改革検討WG、将来構想等研究会の提案を

受けて、評議会のもとに設置された大学改革推進委員会が教員組織の在り方について、最終的な検討を行っています。近い将来、教育研究組織の再編、見直しが十分予想されますが、教育研究レベルを維持し、さらに向上させるため、どのような教員組織をつくる必要があるのか考える時期であります。それぞれの学部・研究科の立場を越えて、全学的な観点からの議論を願っています。B才人口の減少などから考えると、学部入学定員の見直しもありうることでありますが、私達は、本学の理念・目標にそって大学院機能を一層充実することが求められています。しかし、このことが間違っても学部教育の軽視に繋がってならないことは、いうまでもありません。

今春より、医学ならびに歯学研究科が統合されて医歯学総合研究科が発足しました。今後、自然科学系、人文社会科学系の研究組織の整備充実に努力する必要があります。また、脳研究所、各センター、附属病院などの在り方も重要な問題であります。

今こそ、私達の英知を結集して、新しい新潟大学をつくりあげる好機であります。皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

あなたの周りにいる人、  
あなたの周りにあるもの、  
すべてがあなたの先生です。

ケン・ケイエス・ジュニア

## 研究分野の広さ、 学際空間へ飛びこめる 懐の深さが新大の魅力

我が法学部の魅力  
アジア、特に中国とのつながりが持てた。  
懐の深さが新潟大学法学部の魅力。

法学部 法政コミュニケーション学科 3年  
伊藤 みのり

私は入学以前より中国に興味を持っていましたが、法学部の中国サマーセミナーに参加して以来、ますます関心が高まりました。サマーセミナーでは、今までは想像し



私が見た新潟と新潟大学  
法学部の研究分野が広い。日本の大学生は、勉強してなさそうでちゃんとしている

大学院 法学研究科 1年  
マクブール・ローハーン

私は今年の四月から新潟大学大学院法学研究科に通っています。おととしまで、新潟産業大学で勉強していました。私の研究テーマは、現代社会におけるマス・メディアの役割で、その中でも教育とマス・メディアの関わり合いです。現在は、情報技術の変化に対してマス・メディアがどう対応していくのか、そのあり方を探っています。

四月から二ヶ月間という短い期間のなかでも、法学部の研究分野が考えていたよりも広がったので自分の専攻テーマへの関心が良く深まりました。また、大学院での授業が語学力の養成に力を入れており、研究する際の語学力の必要性を改めて実感しました。

私は新潟に約六年間、日本には約八年間住んでいますので、新潟の(日本も)気候、学生生活に慣れていました。私が以前から思っていたことですが、日本の大学生は勉強してなさそうでちゃんと勉強していることです。以前、つまらなそうに講義を聞いていた学生がテストの際に高得点を取っているのを見て驚いたことがあります。また、学内での学生たちの行動や生活姿などがそう感じさせます。母国(スリランカ)の大学生は街の中でも見ただけでそれとわかる雰囲気を持たせています。

よく言われることで、日本の大学は、入学が難しく、卒業が比較的楽だというのがあります。私の母国ではアメリカと同様、入学が楽(難しいかもしれませんが)で、卒業が難しいです。その他に、大学生を見る社会の意識の違いもあるのではないかと考えると、非常に興味深いです。

## 個と個、研究と研究、学際領域の中で 総合大学の魅力が生まれる。



本人前列左から2番目

かできなかった中国の空気に実際に触れ、未知の体験をし、そして帰国後は夢中で中国に関する勉強をしました。そのかいあって、今年の九月から北京大学国際関係学院への留学が決まり、更に勉強する機会を得ました。

また、それがきっかけで知り合った中国からの留学生と、お互いの空き時間を見つけては一緒に日本語や中国語の勉強をし、勉強以外にもお互いの国の文化や社会、政治など様々な話題について話をするようになりました。法学部でありながら国際関係を中心に学んでいます。このような懐の広さが、我が法学部の特徴なのだと思います。大学に入って夢中になれることを見つけたこと、同じ目標を持つ友人ができたことは人生の中で大きな収穫であり、私は今、最高に充実した生活を送っていると胸を張って言うことができます。

総合大学としての  
新潟大学の魅力

大学というフィールド

「友(いろんな人)と語り合う」  
ことに大学の魅力を見出そうとしてきた

経済学部 経済学科 3年  
相馬 崇宏

大学の四年間は、何も行動しなかったらあっという間に終わってしまう。何かしらのモチベーションに自分を駆りたたせなければならないと思う。その何かというのは個人個人で違うものだろうし、その何かは漠然的なもので、途中で見つけることを放棄してしまう。そして日々の生活がいたって単調であると感じてしまう人がけっこう多いのではないかな。

僕は、「友(いろんな人)と語り合う」ことに大学の魅力を見出そうとしてきた。飲み会をしている時など、ふと何かについて深く考え論じあっている自分達に気付く。そして、そこで総合大学である新潟大学の魅力が十分に発揮される。それは、やはり学部が多いということで様々な知識をもった人達に出会える確率が増えるので、活発な論議(ちょっと硬い表現かも)ができることだ。そういうわけでどんなことでもいいからとりあえず与えられた「大学というフィールド」をうまく活用してみてもうだろうか。



語り合うことが、育て合うこと。  
大学の魅力は、出会いの中で生まれる。

新潟大学受験時の希望と現実

人格間の密度の高い相互作用が個の輪郭と内実を育てる。  
自分だけのあり方をつかみたい

経済学部 経営学科 3年  
小野塚 茜

私が新潟大学の受験を考えるようになったのは、高校二年生の秋でした。商業高校の生徒であった私には、就職という選択肢もありました。しかし、高校を卒業してこのまま社会人としての生活にはいるには自分があまりにも未熟である気がしました。将来社会に出る準備として自分の個性、他人との強調という面で成長しなくてはなりません。また、進学して高校で学んだ商業科目を活かしたより専門的な知識を身につけたいと考えました。そこで、進学先として頭に浮かんだのが新潟大学でした。県内出身者としては、新潟県内にある国立大学ということで親近感があり、進学するならば新潟大学で学びたいと思ひ決意しました。

実際に新潟大学に入学してから早くも三年目になりました。実際の大学生活の中では日々、様々な人に接する機会があります。専門のゼミのみならず、講義を通して親しくなった友達、母校の同じ仲間。こうした、人と人とのコミュニケーションが私の人格形成に大きく寄与してくれるものだと思います。高校時までとは異なる、自我間の或いは人格間の密度の高い相互作用が個の輪郭と内実を育てるのではないのでしょうか。

親元を離れ、大学生活を送っていく中で入学時の希望を忘れかけていたような気がします。残された大学生活の中で、仲間と切磋琢磨しながら「自分だけのあり方」を掴みたいです。



読んでる  
聴いてる  
BOOKS

2001年5月トップ3

3位の「それがぼくには楽しかったから」あのLINUXを作ったリーナス・トーバルズ氏の自伝です。彼の考える「オープン・ソース」とはどのような考え方なのか。コンピュータに関心のない人にも示唆に富みます。

No.1

模倣犯(上・下)

宮部みゆき(小学館)

No.2

十二番目の天使

マンディーノ(求龍堂)

No.3

それがぼくには楽しかったから

トーバルズ(小学館)

総合大学としての  
新潟大学の魅力

梅にも生年月日があり、それがあの緻密な  
年輪のはじまりである筈だが  
どうしてそれは生まれるのか  
年輪は堅い凝縮 命の象徴

草野心平

## 効率を超えた時間を 大切にできる人生の1シーン。 多様なつながりをつかむ時。

新潟大学で学生をすること  
自分の時計を自分で操ることので  
きる人生唯一の期間。

夕日を眺め、地球がまるいことを知る。

理学部 自然環境科学科 4年  
大木 亮子

佐渡に日が沈む、その瞬間を見ようと30  
分程ぼんやり夕日を眺めていたことがあり  
ます。赤々としていた夕日がもう見えなく  
なり、「ああ、地球はまわっているんだなあ」

編入学してから現在までの感想

多様な教養科目、奥の深い専門科目  
を卒業後も学びたい。

大学院自然科学研究科 博士前期課程 1年  
金井 一美

第3年次編入学してきた私は、最初のこ  
ろ卒業単位を取らねば！と思い、とても大  
学の状況を見る余裕はありませんでした。  
学部を卒業してから改めて教養科目を眺め  
てみると、よくは知らないものの面白そう  
な講義が多種多様に並んでいます。今考え  
ればもう少しゆったりと、総合大学ならで  
はの科目を聴くこともできたと思います。  
何通りかの考え方ができる人間になるつも  
りで大学へ来たのに、結局いままでの効率  
第一の行動パターンをとってしまって、な  
かなか習性は変わらないものだと少し自分  
にがっかりしています。専門科目について  
は、数年間学校に通っただけではその分野  
のわずかな部分しか習得できないことが実  
感できました。

ゆえに大学には卒業してからもいつでも  
学べるように科目履修や夜間の講義など  
が充実されることを期待します。そうな  
れば地域の人々も総合大学としての新大  
をより身近に感じてくれるのではないで  
しょうか。

## 言論の自由、時間の自由、 これらを活かす自分づくりの場



と実感しました。

学生は時間に追  
われることがあつ  
てはならないと、  
私は強く思いま  
す。安易な出来合  
いのもではない、  
何が本物か見  
極める力、自分の

オリジナルな考えやものの見方を時間を  
かけて養うことが、学生の学生たる所以  
だとすれば、学生時代はまさに自分の時  
計を自分で操ることのできる人生唯一の  
期間かもしれません。その期間を夕日や、  
様々な美しいものに囲まれたここ新潟で  
迎えられたことに、感謝しつつ「学者は北  
からやってくる」という言葉にこの地を  
重ねずにはられません。

総合大学としての  
新潟大学の魅力



本人前列左から2番目

理想の大学～現代日本の大学事情～

新潟大学の最大の魅力は、自由にものが言える環境があることだ。

大学は社会の縮図。この欠点が魅力を引き立てる。

医学部 医学科 4年  
長野 央希

現代日本の大学事情、ひいては日本の現在に目を向けると、非常に問題が山積していると言わざるを得ない。私が日々暮らして、気付く事を幾つか挙げてみたいと思う。

事無かれ主義（表面的な平和主義）

学生としても、人間としても正当な評価を得られない現状。

夢や広い視野を持ちにくい環境と雰囲気  
権威者やエリートに対しては弱気な点

この様に見てみると、大学は社会の縮図に他ならないと言えよう。新潟大学も、この批判の対象からは逃れられない。しかし、良い面も多々ある。この様に欠点がある事は魅力の一つだと思う。完璧な物等存在しないし、存在したとしても、そんな物に魅力を感じるだろうか。欠点が美德を引き立てるのだ。では、最大の魅力とは何か。自由に物が言える環境がある点だろう。この環境の下で、問題を問題視する勇氣さえあれば、新大らしい魅力は安泰であろう。



本人 右から2番目

友と酒と  
類は友を呼ぶ。

専門の世界へ入っても、専門の世界にとらわれない友に恵まれているのが、新大の魅力。

医学部 保健学科 2年  
長谷川 晃

今年の4月から旭町キャンパスに移り、専門科目ばかりになった。毎日同じ顔ぶれとしか会わないので高校の時とあまり雰囲気は変わらない。

それでも、総合大学のメリットなのか、私は五十嵐キャンパスにもたくさんの他学部の友人に恵まれた。中には変な人もいる（「類は友を呼ぶ」か!?!）が、みんないろいろ頑張っている。パチスロに燃えたり、部活で頑張ったり、いろんな資格取得に挑戦したり…。私もこの夏は海外探検に行くので、バイトに燃えている。

ところで、私は酒に恐いほど弱いのに、なぜか私のまわりには酒の強い人が集まってくる。私もちょっとは強くなる様に頑張ってみたが、トイレはもちろん、病院にも近くなるので諦めた。友人達との酒のつき合いには苦勞している。軽々しく合コンにも出られない。合コンなんていう話自体がそんなにないというのも事実なんだけど。



本人後側

自由にものが言える自分づくり。  
新潟大学の自由な環境を生かす。

Come on ! baby !!!

すべて女性の「味方学」は、幅が広い。

東洋医学・国際活動論・コミュニケーション能力・・・

医療技術短期大学部  
専攻科学生一同

私たち助産学特別専攻科生は、看護婦・士の資格を持っている人が助産婦・士を目指して勉強しています。助産というとお産の介助というイメージが強いと思います。もちろんお産の介助、お産の後のケアもすごく重要なことです。でも私達は、思春期から更年期にわたり、セクシュアリティについてや受胎調節実地指導員になるための勉強もしています。講義も妊娠やお産についてのこと以外に、指圧の授業、東洋医学、国際活動論、学生のコミュニケーション能力を養う授業など幅広い分野の教科が選択できます。現在は大学病院で実際に妊婦さん、お母さん、赤ちゃんと関わっています。学生もやる気マンマンで、やさしく熱心な先生達と定期的に飲み会を行ったりして親睦を深めています。すべての女性の味方になれるよう頑張っていきたいです。



総合大学としての  
新潟大学の魅力

すべての行為と思考とは、  
世界と神を含む、  
自己の魂との対話となる。

## 自分を見失わずにいられる バランスの中で、 コミュニケーション力を相互に身につける。

言いたい放題 新潟大学  
地味とミーハーの中間で、微妙なバ  
ランスを保っている。  
『新潟』にある大学、それ自体が好きなのかも

歯学部 2年  
安達 大雅

「一步一步」  
コミュニケーション、医療人として  
必要不可欠な要素を学生が相互に  
身につける場

歯学部 3年  
寺内 由佳

新潟大学.....新潟にある大学って言う  
こと自体が好きなのかも。僕の場合は日本  
海側に来ること自体に憧れてましたから  
ね。そんな僕は静岡県出身なものだから、



クラスメイトと

## 多様な相互コミュニケーションの中で 自分を見つける



「どうしてわざわざ雪の  
降る所へ？」ってよく  
聞かれちゃいました。

確かに雪は降って冬  
は動きづらい。風が強  
くて傘が使いものにな  
らない。でもしっかり  
夏は暑い。だけどそれ  
が「新潟にいる」って  
いう実感になるのです、  
僕は。新潟大学ってい

うと、もっと庶民的というか地味なイメ  
ージを僕は勝手に持っていました。けれど実  
際は少し違ってました。新大にこんな方  
が来ることもあるのか！とか、逆に新大は  
こんな所にも手を出していたのか！とい  
った驚きがありましたね、入学してから。か  
といってどこかの私立大学みたいなミー  
ハーの華やかさはやっぱりない。そんな微妙  
なバランスが僕には合っているのかも。ス  
トレスが溜まって発狂しそうな日もある  
けれど、時折愚痴をこぼしながらさすが  
新大がなかなか良いのです。

歯学部に入學して、早くも3年目に入り  
ました。「20歳を過ぎると時間が経つの  
が速い」と言いますが、そのせいなのか、も  
しくは実習やレポートに追われているから  
なのか、毎日があっという間に過ぎていき  
ます。

3年目にもなると、だんだん臨床系の講  
義や実習が増えてきて、歯科医師に一步近  
づいた喜びを感じると共に、出来の悪い提  
出物に自分の適性に疑問を持って落ち込む  
こともあります。また、入学するまでは単  
純に「歯医者さんの仕事」と考えていたこ  
とが、緻密な理論や必要な技術によってい  
くつもの学問に分けられていることを知  
り、歯学の奥の深さを痛感します。

実習も多くなり、それを通してクラスメ  
イトとの交流も深まってきました。勉強だ  
けでなく人とのコミュニケーションという  
医療人として必要不可欠な要素をお互い  
身につけて、学生生活を楽しまたいと思っ  
ています。

へ  
っ  
せ

総合大学としての  
新潟大学の魅力





専門用語

専門に疲れたときに、息抜きをできるのが、総合大学。

だけど、情報難民になってはいけない

工学部 福祉人間工学科 4年  
羽下 大亮

「総合大学のいいところ」

出会いの機会が増える総合大学。  
自分の選択肢が広がり、やりたいことを見つめることができる場

工学部 化学システム工学科 4年  
三島 龍児

新潟大学に入学してはや4年？以上ホントにアツという間だった。来年はもう卒業である。現在、就職活動をしており、これが載るころには決まっているでしょう……。と、こんなプライベートの話はここまでにして、総合大学である新潟大学のいいところを考えていきたい。

総合大学とはいっても他の総合大学はほとんど別々に分かれている。しかし、新潟大学は、医・歯学部以外はすべてこの五十嵐地区に集まっている。このことにより人との出会いの機会が増えることは間違いない。実際、私も多くの他学部の友人がいる。他の学部のことを知識として得られることは、新潟大学のような総合大学の最大の魅力であると思う。また、自分の進む選択肢も広がり、やりたいことをみつけることもできる。このような点が新潟大学という総合大学のいいところであり、私も5年間も在籍してしまった。

多様な出会い、情報に囲まれる。その中で意味を見つめる場。

総合大学の魅力は、多種多様な科目が履修できること、大学生協をはじめ多くの設備が充実していること、そして大勢の見知らぬ人々が共存していることです。

このような大きな大学で困ることは、自分は大勢の学生の1人にしか過ぎず、提供されている多くの情報をうまく取り入れて行かないと損になることです。

もし、総合大学でなく工学専門といったような大学に入っていたら、すごくアタマが固くなっていたかもしれません。そして専門バカと呼ばれるような人になるかもしれません。(専門バカ...専門用語を普通の言葉で言えない人。自分の専門分野のことをすべての人が知っていると思っ込んでいる人。)総合大学では

専門に疲れたときに息抜きをするのにも便利です。

今後専門バカになる機会はいくつかあると思いますが、そうならないように精進したいと思います。



読んで聴いて  
**CD ALBUM**

2001年5月トップ3

5月はMISIAが1位となっています。MISIAのレコーディングはほとんど一発テイクだそうです。歌のうまさを裏付けます。福山雅治の「f」は2種類のジャケットで発売されました。一種類はLPレコードの大きさでした。うーん、どこに収納しようか迷います。「明日があるさ」でおなじみのウルフルズのベストが3位になっています。彼らの曲作りを追いかけたTV番組を見ましたが、興味深かったです。ものを作り上げるということは大変な作業だと思いました。

No.1

MARVELOUS

MISIA

.....

No.2

f

福山雅治

.....

No.3

ベストだぜ!!

ウルフルズ

総合大学としての  
新潟大学の魅力

成功は目的ではなくその過程にあります。  
楽しみの半分は、そこに行き着くまでに  
あります。

ギタ・ベリン

## 異分野へのインターフェース。 人生の糧を得る鍵を 手に入れよう。

総合大学の魅力

別の世界に接するインターフェース：  
農業の現場、専門の異なる仲間

農学部 農業生産科学科 4年  
田中 篤史

私は、農学部に入學したとき、大学での授業は講義だけかと思っていた。ところが2年次になって、2泊3日の農場実習で、トラクターの運転や乳牛の世話などを初めて体験した。3年次には農林経済学分野の専



大学生活

人生の糧となり、財産を得る場が新潟大学  
異分野の英知が結集する場、研究だけではなく  
自分を鍛える場

大学院自然科学研究科 博士前期課程 2年  
長澤 良則

## 異分野・社会現場への入口 新大は、どきどきワンダーランド

門に進級したが、新潟県の川西町という山に囲まれた山間地で、泊まり込みながらの農村調査の実習があった。そのおり、農家の方々とじっくり経営の現状や悩みを聞くことができた。それはたいへん刺激的で貴重な体験だった。机上の学習に留まらず、ナマの農業に触れた感じで勉強ができたと思っている。また、勉強以外の面では、クラブ活動で他学部にとくさんの友人ができた。専門の異なる仲間との交流は、ときおり別の世界に接するようで楽しい。総合大学だからこそ経験できることかもしれない。



私の大学生活は充実していました、と言える大学生はどのくらいいるだろうか。大学は学問を修める場であり自分を磨く場である。特に総合大学は様々な分野の英知が結集するところであり、またいろいろな個性をもつ学生や教授が大勢いる。

私は、新潟大学に入るまでは「学問を究める場」という印象がとても強かった。農学部に入學・卒業してその後大学院に進學し、現在は、「中山間地直接支払い制度における農地利用の変化」というテーマで修士論文に取り組んでいる。この6年間の学生生活で、今まで感じていた大学に対する印象が変わった。この間、私はクラブ活動やボランティア活動にも積極的に参加し、他学部の学生との交流等を通じて、総合大学は勉強や研究ばかりではなく自分を鍛える場でもあるのだな、ということ強く実感している。

大学で得ているものは多く、私にとってこれからの人生の糧となり財産になるだろうと予感する。多くの学生がこの新潟大学で大いに充実した生活を送って欲しいと思う。

総合大学としての  
新潟大学の魅力

私が見た新潟大学

真・善・美、学問・道徳・芸術の理想を求めて

大学院現代社会文化研究科 2年  
姜 先姫（韓国）



最初、留学先を日本に決める時は、日本文化体験をしてみるという、余りにもお粗末で単純なイメージしか持っていなかった。新潟大学に入り、本格的に研究をするようになってから如何に、私の頭の固い所を思い知らされて、そして叩かれて、叱られ続けて人格的に成長していくのを実感した。勿論その過程で辛い思いや、苦悩もあったし、時には自分だけが頑張っているような気になっていたこともあった。良い意味でも悪い意味でもこんなに自分と向き合う機会を与えてくれた新潟大学に感謝の気持ちでいっぱいと言ったらほめごろかな。

大学教育を考えると、いつも頭に浮かんでくる理想的な言葉は真・善・美である。真とは、学問の理想であるし、善とは、道徳の理想である。そして美とは、芸術の理想である。これらの理想を求めて皆さんも水の都と呼ばれている新潟の新潟大学で学問の世界の新しい理論や真理を発見できたときの喜びを感じてみたらいかが。

放射線技師ときどきorときどき大学院生

社会に出てからもキャンパスに戻れる  
「ふところ」の大きい環境がある

異分野の学び、青春の感性、ときどきワンダーランド

大学院現代社会文化研究科 2年  
松田 陽介

医学部保健学科の前身である医療技術短期大学部を卒業し、ある私立医科大学に勤務し、事故や自殺、労働災害を含むあらゆる病者とお会いし、病者の発生母体である社会に何かあるのではないかと思い法学部で学ぶようになりました。

その後、新潟の病院に勤務し時間が経過するのですが、社会人入試により法学研究科の院生となり医療を社会科学



## 水の都で感じる真・善・美。 青春の感性とチャレンジ精神で。

の方向から考察するようになった。気がつけば今は現代社会文化研究科にお世話になっています。

一度社会に出て色々考えたらまたキャンパスに戻れる、そんな環境が新潟大学には用意されていました。総合大学の新潟大学はふところが大きく学ぶ機会を授けてくれます。ありがたい事です。授業の準備が間に合わず、ときどき、久しぶりの外国語文献にときどき、忘れかけていた青春の頃の感性にときどき新潟大学は楽しいワンダーランドです。皆様ときどきな世界と一緒に参加しましょう。

国際化の進む新大で思うこと

三年で倍になった留学生の人数。日進月歩する国際化を見守りたい。

学習奨励金選抜制度の透明さ、公開さの問題改善にチャレンジして雄飛する場

大学院現代社会文化研究科 2年  
王 強（中国）



本人 右側

三年前、私は中国の天津から留学に来ました。日本で自分の研究課題に一生懸命に取り組み、また将来中日友好のために自分の力を捧げたい、というのが私の大きな夢でした。今、新潟大学での三年間を振り返ってみると、感心したこともあれば、失望の意を禁じ得なかったこともあり、本当に感慨無量です。

新潟大学に留学生センターがあるのは、何よりも嬉しいことです。新潟大学の国際交流事業は大いに拡大され、三年前は200人程度だった留学生の人数が今や40ヶ国から400人以上という膨大な数字からも新潟大学の日進月歩する国際化がうかがえます。

私がかかりしていることは、学習奨励金選抜制度に不備があることです。透明さを欠き、公開さが足りない点は、留学生達の間で大いに議論されていることです。国際文化という大きな流の中で、このような点は一日も早く改善されればと思っています。このような問題改善のいかんは国際化における新潟大学の成長に直接つながるものだとつくづく思います。

一人の留学生として、母校が国際化の大きな流れのなかで青空に大きく雄飛するよう願って止みません。

総合大学としての  
新潟大学の魅力

時々、仕事を休み、人と離れて一人きりでどこかへ行って、ただ、「そこにいる」ことは、とても大切です。

アイリーン・キャンデー

## 研究の『難』と『楽』、 『集中』と『気分転換』、 リズムをつくる余裕がここにある

新潟大学の魅力

五十嵐キャンパスに学部が集中していることで、沢山の友人に恵まれた研究の『難』と『楽』を学ぶ場、人間関係を学ぶ場

大学院自然科学研究科 博士前期課程 1年  
矢野 正晃

僕が新潟へ来てから5年目となる今年だが、本当に沢山の友人、知人に囲まれている。新潟大学は総合大学であり、医・歯学部、医療技術短大以外の学部が五十嵐キャン

大学生活

歩く、ソフトボールをする、リズムをつくる、余裕ある生活ができるいろいろな機会に、いろいろな人と出会える

大学院自然科学研究科 博士前期課程 1年  
河合 孝明



## 恵まれたリズム感。 研究と出会いの環境を生かす



本人 前列左から2人目

ンパスに集中している。そのため1年生の頃から沢山の友人に恵まれ、食事や飲み会、授業を通して楽しい思い出を作ってきた。またサークルに入会したことによって他の学部の友人、先輩も沢山できた。特に1から2年生の頃は研究室に入ることがなかったため。先輩はサークルで見かけること

しかなかったが、授業のこと、酒の楽しい飲み方等を通してよく世話してもらい、日々が生き生きとしていた。3年生以降は研究室に入り、大学での勉強、研究の深さ、難しさ、解明してゆくことのおもしろさを学んだ。現在では更なる研究を続けるため、大学院に進学し、忙しくも愉快的な日々を過ごしている。これらの思い出は、大学生でなければ作ることのできないかけがえのないものである。僕が思うに、総合大学での生活とは勉強・研究の難しさと楽しさを学ぶと同時に、友人の輪を大きく広げ、人間関係を学ぶことである。

私は現在大学院で物性理論を勉強しています。物質の性質を理論的に解明することに興味があったので、今の研究室を志望しました。実際勉強してみると、やりたい研究をしているといっても、その中にやっていて楽しくとても充実感を感じる面と、ひどくつまらないと感じる面があり、少し戸惑っています。だから、夜遅くまで院生室で勉強し、さらに家に帰ってからも勉強していることもあれば、遅く来て早帰りする日もよくあります。そんなときは、気分転換に運動したり、いろいろなことをやってみます。最近では雨の中、新発田駅から新潟大学前駅まで歩いてみたり、大学内のソフトボール大会に出てみたりしました。新潟大学では、ある程度そういう余裕のある生活ができるのがとてもよいと思います。また、その他いろいろな機会にいろいろな人と出会えることが、総合大学のよい所だと思います。

総合大学としての  
新潟大学の魅力

新潟大学に学んで  
全学共同研究施設、ことにアイ  
ソトープ総合センターに感謝

大学院医学研究科 3年  
櫻田 潤子

入学式数日前、風荒く雲低い天気  
のなかでまだ人気のない五十嵐地区  
に引っ越しをしてからもはや9年が  
経とうとしている。五十嵐地区に暮  
らしたのは1年であったし、医歯学  
科の必修講義を選択すると学部共通  
の講義が少なくても多少残念な思いを  
した。しかし、アパートの隣室にい  
た教育人間科学部の学生が偶然同じ  
聴講生で共に勉強したり、全学のバ  
ドミントン部に参加したことなどが  
良き思い出となっている。

旭町地区においては、現在附属病院の新  
築など再開発の最中である。構内には学部  
施設の他に全学の研究実験施設があり、こ  
とにアイソトープ総合センターは設備の充  
実した施設で有効に利用させて頂いてい  
る。これも本学が総合大学であるおかげと  
感謝しているが、自分も大学や社会に少し  
でも貢献できる様に努力しなくては、と考  
える毎日である。



本人中央

深さと広がり、  
ハード(施設)にも、  
ハート(出会い)にも

研究室で



あなたは旭町派？五十嵐派？  
「深く知り合い、視野を深くす  
る」VS「多様な人と知り合う  
機会に恵まれ、視野が広がる」

大学院医歯学総合研究科 1年  
宇都宮 宏子

今年の春、歯学部を卒業し、大学  
院に進むことになりあらためて1年  
生になりました。

新潟に来てからいつの間にか6年  
が経ち、知らぬ間に新潟の色に染ま  
ってきている今日この頃です。

歯学部のカリキュラムは教養1年、専門5  
年という課程なため、教養は五十嵐に、専  
門からは旭町に通うという、全く雰囲気  
の違う2つのキャンパスを体験する機会に恵  
まれました。両方に通ってみて、色が違う  
なあと思いました。

歯学部はほぼ単科に近く、クラス全員で  
同じ講義、実習を受けることが多く、ず  
っと同じメンバーでいることが長いため、こ  
ぢんまりと、深く知り合い、視野は深くな  
る色が濃いように思います。一方五十嵐で  
の感想は、キャンパスも広いし、講義毎に  
隣に座る人は変わり、いろいろな友達と知  
り合いになる機会が沢山あり、視野が広ま  
る色が強いと感じたことを覚えています。

それぞれ長所・短所があると思いますが、  
色々な人とまじりあえる機会がある新  
大に来て良かったと思います。

読んでる  
聴いてる  
叩いてる

PERSONAL  
COMPUTER

2001年5月トップ3

生協購買部では4月から5月に  
かけて学習用パソコンプログラ  
ムを展開してありましたので、  
それ以外での集計となっております。  
5月はSONYのVAIOシリ  
ーズに人気が集まりました。ノ  
ート型・デスクトップ型ともに  
利用がありました。また5月は  
パソコン本体だけでなく、プリン  
タやMOドライブなどの周辺  
機器、インクカートリッジなど  
のサプライ品も多くの利用があ  
りました。

No.1

PCG-FX33G/BW  
SONY ノート型

No.2

PCG-R505/BW  
SONY ノート型

No.3

Essentialシリーズ  
Gateway デスクトップ型

総合大学としての  
新潟大学の魅力

新大祭常任委員会の方々をはじめ、  
様々な団体の協力のもとで開催。  
多様さが、ひとつになる魅力を感じた。



## 見えなかったものが見えてきた。 多様な世界での姿勢。

関係づくりの作法  
新潟大学では、どんな作法が  
自発していくのだろうか。

新潟大学黎明祭  
42回目を迎えた黎明祭。  
6月3日開催。

新潟大学学友会黎明祭実行委員長  
近藤 至

新潟大学黎明祭は、今年で42回目を迎えました。今でこそ黎明祭のすべてを熟知していますが、いきなり実行委員長に担ぎ上げられた当初は「黎明祭って何？」と思っていました。実際、黎明祭は一般にはあまり知られていません。ですから、偶然とはいえ実行委員長に任命されたからには、今年の黎明祭は学生の目を向けさせるようなものにしよう、という目標で企画してきました。

実際に動いてみると、様々な問題に足踏みを余儀なくされました。学友会委員は、各部活の代表であり、もちろん部活を兼ね

ています。各個人のスケジュールの合間をぬってでは、話合いの時間もあまりなく、委員同士の意志疎通もうまくいきませんでした。また、運営に関するノウハウの全てが、着実に引き継がれることなく回を重ねてきたということも悩みの種でした。結局、自分たちがほぼ一から始めなくてはならない、そんな切迫した状況でした。

それでも例年以上の黎明祭にできたのは、様々な団体の協力があったからです。主に

協力して頂いたのは新大祭常任委員会の方々でした。新大祭を見ての通り、彼らは学園祭のプロフェッショナルです。立て看板の基礎を貸して頂いたり、ステージの組立をして頂いたりと様々な面でお世話になりました。手伝って頂いている時に差し入れをするなど、団体としての姿勢もここで学びました。

新潟大学には様々な分野で活躍している組織が数多くあります。そういった組織が団結し協力することが、新潟大学を動かす原動力の一つなのだと思いをしました。最後に、実行委員会を始めとして、参加して下さった全ての方々から感謝したいと思います。皆さんのおかげで成功させることができました。本当にありがとうございました。

大学は社会に求められている人材を育てる場所。

だからカリキュラムがあり、そして勉強には無駄はない。

学長との対談を通して  
黎明祭で学長と学生との  
対談を学友会が企画する。

新潟大学学友会総務部委員長

須佐 信之

学長から「学生と話す機会が欲しい」との申し出があり今年も黎明祭で対談を企画しました。学生にとって学長というのは遠い存在であり会う機会はおろか話す機会などほとんどありません。それでこの企画は大学に対しての疑問、意見などを話し合ういい機会になると思いました。当日の人の集まりは予想よりもずっと少ないものになったのでこのままでは意見もろくに出不ず失敗するのではと不安でしたが、対談が始まると質問、意見は途切れることなく出てきてほっとしました。

意見は「老朽化している施設・設備を充実して欲しい」から「授業の欠席等、学生のモラル低下をどう思うか？」まで幅広く出ましたが、中でも私は「自分は高専で専門的な勉強をしてきたのに大学に来てまた同じようなことをやらされているし、カリキュラムが組まれていて自分のしたい研究ができない」と言ったことに対する学長の答が印象に残りました。「自分のしたいことをやるのであれば専門

来年も企画して欲しい、学長との対談  
見えにくい大学を身近にするためにも。

学校もある。大学というのは社会に求められている人材を育てるという性格も持っているのでカリキュラムがあるのは当然である（わかりやすく言うと医学部は医者育てるためのカリキュラムが組まれる）。同じ事を勉強するといっても勉強に無駄はない」との答だったのですが、私はそこで大学というものの性質を再認識しました。

今年はいくつかの人数しか集らなかったにもかかわらず熱気溢れる対談となりました。これでもっと人数が集ればとても有意義になると思います。できれば来年もこの企画を実行してもらい交流の場を作っていたなら見えにくい「大学」というものが身近になるかもしれないと思いました。



## 農村問題研究部

未来づくりという

遊び場をつくる

農村問題研究部は、新しくできた学友会正式クラブです。ほぼ固定したクラブで推移しており、新しいクラブが生まれるのはまれなことです。

この農村問題研究部は、別名、新潟大学無差別エンターテイメント集団『めしにすんべ』といわれ、実はこっちの方がほんとの名称です。めしにすんべ農園を市内平島に持ち、農園を中心に交流の場をつくっています。また、こどもたちとの交流を進める寺子屋（農園付属平島校、松浜校）を開催するなど、その多様さは農村問題だけにおさまりきれません。

「未来づくりという遊びをしよう」そう叫ぶ『めしにすんべ』の活動は、『月刊がむしやら』で詳しく知ることができます。かなり、おもしろい内容です。一度ご覧下さい。



編集：がむしやら団  
(090-2417-6918、笠原)

ナント・マネジメント・スクール  
日本で唯一の協定校が  
新潟大学である。

1598年、「ナントの王令」  
宗教戦争に終止符を打った『寛容の精神』に  
思いを馳せる。

## ナントの町と歴史と

経済学部経済学科助教授 西山 教行

ナント市はフランス共和国の首都パリより南西に383キロ、TGVにて一時間半あまりで到着する。ロワール川下流に位置する、交通や経済の要衝である。フランスの多く

とユダヤ教の対立があらたな社会問題として顕在化してきた。

フランスは20世紀の半ばから、イスラームを奉ずるフランス植民地帝国のアラブ人を移民労働者として呼び寄せてきた。ところが、中東でパレスチナ問題が行き詰まり、武力衝突が発生するや、アラブ系移民とユダヤ系フランス人は、それぞれパレスチナ側、イスラエル側の支持勢力として大義を唱え、しばしばフランス国内における事件として社会問題化する。より正確に言えば、フランスにおいて社会的弱者の立場にあるアラブ系移民の若者などが、日頃の鬱積をパレスチナでの衝突に重ね合わせて、シナゴーク(ユダヤ教の会堂)や教育施設への襲撃として表面化するのだ。この意味で、フランスにとってパレスチナ問題は決して対岸の火事ではない。フランスがあらたに抱えざるを得なくなった20世紀の国内社会問題である。改めて、ナントの王令のうたった寛容の精神に思いを馳せてしまう。

またナントの町の繁栄が、17世紀より19世紀まで行われてきた「三角貿易」という名の奴隷売買にもとづいたことも忘れがたい。フランスは1998年に奴隷制廃止150周年を祝福したが、奴隷の記憶は廃止できるものではない。当時のナント奴隷市場は現在、優美なアーケードへと変容し、最新流行の競演する空間となり、時代の変遷を実感することができる。市の中心部を散策すると、思いのほか貴金属店が多いことに気づく。これもまた三角貿易によって、新

日本海 太平洋、ウラル山脈を越えて  
教育研究の交流が始まっていくだろう

の町のように、ナントも歴史に恵まれており、その起源はローマ時代にさかのぼる。ローマ帝国の洗礼を受けた後に、中世にはブルターニュ公国の中心都市として繁栄をきわめたが、ナントの名前を後世に刻みこんだ事跡は、なかでも1598年の「ナントの王令」である。

16世紀のフランスはカトリックとプロテスタントが骨肉を争う宗教戦争に明け暮れていたが、その争いに終止符を打ったのがアンリ四世である。アンリ四世はこの王令によりプロテスタントの権利を認め、フランスに宗教的寛容を実現した。しかし、この王令は歴史的記憶に輝いているだけではない。これは現代社会においても宗教的寛容の重要性を呼びさますものである。

今日のフランス社会において、カトリックとプロテスタントの対立抗争はすっかり解消し、相互承認はエキュメニズム(教会一致運動)として結実を見せている。それにかわり、移民の流入によってイスラーム



学内に設置された噴水はフランスのエスプリを感じさせる。





学生の知的活動の拠点  
となるメディアラック  
(図書館)。



ンゼーコールの特色の一つはその国際性にある。学生定員の20%を外国人学生が占め、協定校は世界20カ国で60校に及ぶ。イギリス、スペインの大学との提携に基づき、各国の大学でそれぞれ一年間の学生生活を送るコースもある。三言語を使う、ヨーロッパ人ビジネスマンの養成を目指すプログラムである。

ナント・マネジメント・スクールにとって、新潟大学は日本で唯一の協定校であり、近い将来にはフランス大学生が五十嵐キャンパスに学ぶ日も訪れるだろう。ちなみに新潟市は、新潟フランス協会の尽力もあって、ナント市と交流協定を結んでいる。その意味で、交流は行政や、大学、また市民レベルなど様々な場に展開することだろう。さらに経済学部は協定校締結に引き続き、学生交流協定も準備しており(九月に締結予定)、本学の学生がナントに学ぶ日も遠からず訪れるだろう。これからは日本海から大西洋へと、ウラル山脈を越えて教育研究を目指す学生が次々に現れることを願ってやまない。

大陸のエルドラド(理想郷)から収奪した黄金が現在も街に眠るあかしだろうか、富に身をまかせた男たちの夢に

## 第三セクター型の大学院大学 ナント・マネジメント・スクールと交流協定

身をゆだねるひとときであった。

ところで、今回のナント訪問は、歴史の夢にひたるためではない。本学の経済学部は2001年1月1日をもって、ナント・マネジメント・スクールと交流協定を締結した。今回の探訪はその交渉を目的とするものであった。

ここでナント・マネジメント・スクールの紹介に移りたい。フランスの学制は日本と異なり、高等教育が二つの系列から編成されている。一つは国家が運営し、バカロレアの成績にしたがって入学できる大学と、もう片方は高校卒業後に二年間の準備学級を経て入学試験により選ばれるグランゼコールである。グランゼコールには、官庁が直接に経営し、学生を準公務員として処遇するところもあれば、私立経営の学校もある。ナント・マネジメント・スクールは、ナント市商工会議所とナント市が共同出資している第三セクター型の大学院大学であり、昨年10月に創立100周年を迎えた、フランス屈指の伝統校である。

キャンパスは町の中心街よりトラム(路面電車)で20分ほどの閑静な文教地区に位置し、ナント国立大学など幾多の教育研究組織が連なる大学街の一角にある。ここに専任教員44名を配し、1000名規模の学生数を誇るキャンパスが位置する。キャンパスには、フランスらしい斬新な建築が教育研究の場を提供している。校舎を飾る噴水も、訪れる人々の目をなごませ、やすらぎを与えてくれる。このグラ



斬新なデザインの正面玄関。

# 自尊心の守り方

あなたの心が一番傷つくのはどんな時ですか？

保健管理センター 講師  
七里佳代

人間は「感情の動物」といわれますが、他の動物と比べてとりわけ特殊であるのは、どんな人間でも必ず自尊感情を持っているということです。人間の子どもが健康な精神発達をとげるには、自尊心が適切に育つかどうか大きな鍵を握っていると言えます。ところが、近年の少子高齢化社会の到来により、この「自尊心」がうまく育ちにくい傾向が目立ってきているように思われます。

自尊心が芽生える起源は、赤ちゃん時代にお母さんから自分の存在を丸ごと受け入れてもらう体験です。おなかがすいたり、おむつが濡れた時に、お母さんは泣き声から様子を察知し、欲求を満たしてくれます。ここで赤ん坊は、自分を献身的に世話してくれる母親を通して自分という存在を確認していくのです。これは、いわば「自尊心」の基礎工事の部分にあたると言えましょう。そして、この次の段階からが「自尊心」が適切に育つかどうかの分かれ道になります。現代は少ない子どもを大切に育てる時代です。そして、祖父母や曾祖父母の代までもが健在で、まわりの大人たちが一人の子どもにかかるエネルギーは溢れんばかりです。両親は先回りして、子どもの歩くコースを舗装工事し、ころばずに歩けるように細心の注意を配ります。しかし、そういう道ばかりを歩いているのは「自尊心」が健康に育つには実は不自然な環境なのです。そういう環境で育った子どもは、アスファルトの道路は当たり前で、雑草がはえていたり、石がころがっていたり、ぬかるんでいたりする道路は、歩ける道路だとさえも思わなかったりします。ここに、思い違いの始まりが発生します。

雑草や石ころやぬかるみがあるのは、自然界では当然のことです。もし、初めから地球の表面が舗装されているとしたら、それは、どの人間の顔も全部のつべらぼうであるように不気味なことです。人間社会にたとえれば、自分とそっくり同じ外見の人がそうたやすくは見あたらぬように、自分以外の人たちはいろいろな考え方をされていて、赤ちゃん時代のお母さんのように献身的に保護をしてくれる存在ではないのです。ですから、この段階で砂利道も歩けるように心を鍛錬

してゆくことが「自尊心」を正しく守り育てるためにどうしても必要になってきます。幼稚園に入り、小学校に入学し、中学・高校と進んでも、やり方によっては集団の中でもまれる体験を回避したまま過ごせるのが今の時代です。親は、子どもと友達のように楽しく暮らすことばかりを優先させ、子どもが間違っただけでも叱りません。親の方にも面倒は避けたい、嫌われたくないという気持ちが先行して無責任になり、親を放棄しているかのようにさえ見える親もいます。

こういう育ち方をした子どもは「ダメ」といわれることに非常に弱く、拒絶を恐れるあまり全く自分を出さないか、反対に少しのことにも猛烈な怒りで反応してしまうという行動をとりやすくなります。怒りが持続し、見当違いの恨みの気持ちを発展させることさえあります。いつも肯定されることが当然であるかのように錯覚したまま大きくなってしまったからです。もし、あなたの心が傷つくのは人に「NO」と言われた時であり、その程度が非常に強いとしたら、「自尊心」が適切に育っていない可能性が考えられます。一つの事象をさして「NO」といわれても、自分が全否定されたのではないことを理解し、人間社会の雑草や石ころに足を取られずにたくましく歩くことが本当の「自尊心」を守ることにつながります。「自尊心」は自分で正しく守ってゆけるものなのです。

## 保健管理センター【五十嵐地区】

Tel.025-262-6243 Fax.025-262-7517

## 旭町分室【旭町地区】

Tel.025-227-2040 Fax.025-227-0748

利用時間 / 8:30 ~ 17:00 (土・日曜、休日は除く)

# こちら就職部

## 就職相談事務室から

就職相談事務室では、全学年を対象に就職相談を行っています。就職に関すること、何でも相談に応じています。

まず気軽に全学年を対象に就職相談を行っていますので就職相談事務室へ来てください。新入生から歓迎します。2年後には就職活動が始まります。就職相談事務室では現在まさに就職活動真っ只中の4年生がパソコンで企業を検索する姿や、内々定をもらった人が相談に訪れるといった様々な光景が見られます。

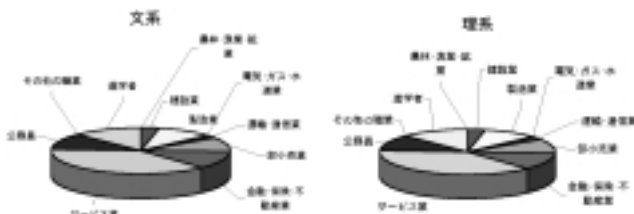
10月からは、多方面にわたる就職ガイダンスが始まりますので、常に掲示板に注目願います。

本当に自分のやりたい仕事を探すこと、それには、まず、自分を知ることです。知名度だけで会社選びをせず納得のゆくまで考えて結果を出しましょう。

## 平成12年度卒業生の就職状況

業種	製造業	流通業	サービス業	公務員	その他	就職率	就職希望率	就職希望率	就職希望率	就職希望率	就職希望率
平成12年度	0.9%	0.3%	18.0%	0.0%	7.8%	19.0%	12.3%	37.6%	11.7%	0.0%	12.3%
平成11年度	0.9%	2.7%	6.8%	0.9%	5.7%	18.1%	14.1%	31.0%	15.9%	0.0%	9.3%
平成10年度	0.5%	4.3%	14.2%	0.7%	2.7%	2.9%	0.2%	20.3%	3.3%	0.7%	47.0%
平成9年度	1.7%	8.8%	13.3%	1.0%	2.3%	1.6%	0.0%	9.8%	3.3%	0.0%	33.6%

昨年度は近年低迷していた景気に若干の回復の兆しが見られ、特に製造業の雇用が回復したこともあり学生の就職状況にもそれが反映され、製造業への就職者の割合が増加しました。また、公務員への就職者の割合は採用枠の減少から、年々低下しています。人気が高い公務員ですが、実際にはかなり難関であるうえに、この傾向は今後も続くと考えられます。



## キャリアインターンシップ開始!!

### キャリアインターンシップとは?

就職部が今年から開始する、在学中に学生のみなさんが企業において就業体験を行う制度です。主に2年次学生を対象とし、県内の優良企業において、夏期休業中の2週間程度、企業の一員となり実際の業務を体験していただきます。

これは授業の一環として行われるインターンシップとは違いますので、単位は認定されませんが、これから、将来のキャリアアップのために非常によい機会となります。是非参加してください。

### キャリアインターンシップへ参加するメリットは?

現在、新卒で企業に入社し、3年以内で離職する割合は30%と言われていています。多くが「自分の思っていた仕事と違ったから」「自分には向いていなかった」という理由です。

つまり就職活動時に十分な企業・業界研究を行わなかったために起こる現象です。そこで、キャリアインターンシップに参加することで、みなさんが様々な業種・職種に抱いていたイメージと現実の業務内容のズレを解消し、また自分の希望する仕事が本当に自分に出来る仕事なのかを見極めることができます。

また、今後の学生生活で何を学ぶべきか?自分に足りないものは何なのか?を発見する絶好のチャンスと言えるでしょう。

### 参加する方法は?

詳細(参加企業、スケジュール等)については、決定次第、掲示いたします。

興味のある方は、就職部就職相談事務室までお問い合わせ願います。



### 就職部就職相談事務室

TEL. 025-262-6087

FAX. 025-262-7516

E-mail : shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

利用時間 9:00 ~ 17:00

(土日、休日は除く)

## 荻野久作博士主要論文集刊行記念 講演会を開催

附属図書館旭町分館は、5月9日、排卵荻野学説の提唱者・新潟市名誉市民である荻野久作博士の主要論文集を刊行した記念として、講演会を開催した。

今回の講演会は、荻野博士の業績を紹介しその人柄にふれる目的で、一般市民を対象として企画したもので、学外から約80人の参加があった。



会場には、荻野博士の子供時代から晩年までの写真をパネルにして展示し、また、診療に使っていたメスや眼鏡などの展示品も用意した。

講演会では、荒川学長の挨拶後、蒲原宏・日本医史学会理事長がスライドを交えて荻野博士の業績を紹介した。続いて、荻野博士と一緒に仕事をされた新潟市の竹山病院顧問である竹山行雄氏が、荻野博士の肉声のテープを流しながら、その人柄などを語った。



## 農学部運動会のニュース

去る5月26日に恒例の新潟大学農学部大運動会が開催されました。唯一の学部全体によるイベントであり、前年が雨天中止となったこともあって、本年は「メジャー、コンフェデ、運動会」を旗印として、学科別3チームと教職員チームによる熱戦が繰り広げられました。パラ



エティ的な要素が強いパン食い競争や障害物リレーのアレンジや風船割り対抗戦などのあと、綱引きやリレーなどといった定番の本格決戦種目が実施されましたが、ここで前半戦はずっと3位に着けていた農業生産科学科チームが大逆転を果たし、見事に総合優勝を射止めました。

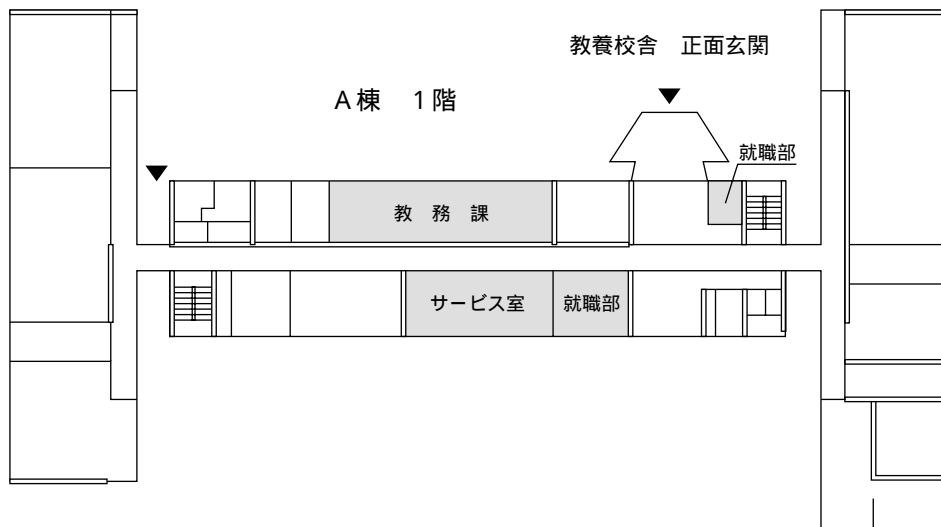
(文責：蘆田一郎・農学部助手)



# 教務課、サービス室、就職部の移転

教養校舎にある「学生部教務課」、「学生部サービス室」、「就職部・就職相談事務室」の各事務室が右図のように移転します。8月7日(火)～8日(水)に「学生部サービス室」及び「就職部・就職相談事務室」、8月9日(木)～10日(金)に「学生部教務課」の各々移転作業を行う予定ですが、窓口業務は行っています。

学生部



農学部の新しいフィールド科学教育研究センターを訪ねてみませんか!!

## in 村松ステーション (旧農学部附属農場)

農学部は食糧生産と環境保全を両立させた農林業を目指し、旧来の農場と演習林を改組して、今年からフィールド科学教育研究センターを設置しました。村松ステーション(旧村松農場・苗畑)は、乳牛飼育と畑作物生産、さらに花粉のでない杉などの森林資源の教育研究をしています。今後も地域と共に発展を続けるためにもセンターを公開いたしますので、ご家族揃ってのお出でをお待ちいたします。

とき 8月12日(日曜日)10時～16時

ところ フィールド科学教育研究センター村松ステーション  
(旧農学部附属村松農場)

### 公開内容

農場生産物の販売コーナー

スイカ・桃・馬鈴薯・タマネギ・トマト・ナス・トウモロコシ他  
なお品切れの場合はご容赦ください

農業機械展示コーナー

広い農場をトレーラーに乗って見学しませんか!

牛さん・山羊(やぎ)さんも迎えてくれますよ!

黎明祭 企画 荒川学長 講演&対談

## 「大学を語る」

去る6月3日(日)10時から教養校舎B255講義室に於いて、開催されました。前半は、荒川学長講演「大学を語る」、後半は学生との対談が行われました。大学生活の中でも、学長と話したりする機会は殆どない中での企画で、対談では学生から多数の意見・質問が出され、盛況のうちに終了した。17ページに関連記事あり

# 新大広報 BackNumber

- 137号 特集：学生の見た新潟大学
- 138号 特集：国際交流
- 139号 特集：卒業
- 140号 特集：新潟大学学長インタビュー

バックナンバーが欲しい方は、事務局の学生部学生課まで受け取りに来て下さい。

# 募集!

## 新大広報の制作に 参加しませんか

自分で投稿した記事や写真がどのようにしてできるか。あるいは、新大広報の編集会議に参加して、新大広報の制作に参加しませんか。

また、新大広報では、部・サークル活動の紹介、発表会の案内、授業で作成した作品の紹介など掲載を希望する記事を募集しています。

問い合わせ先：学生課（262-7330）  
または各学部の広報委員まで。



新大広報 140号より



## キャンパス植物歳時記

### 新大の大きな樹①

ユリノキ（別名ハンテンボク）  
（学名 *Liriodendron tulipifer* a.l.）

農学部の中庭（嵐丘庭）に5階を越えて屋上にまで達しているユリノキが並んでいる。その高さは18mを超えている。名前の由来はその花の形がユリに似ているところからきている。学名も花の形をチューリップに見立てたものだ。別名のハンテンボクの葉の形が由来らしい。アメリカの東海岸に沿った落葉広葉樹林が本来の生育地である。アパラチア山脈の麓には40mを越えるユリノキの林がみられる。新大のユリノキはどれくらいの高さまで成長するだろうか。紙谷智彦（農学部）

アメリカの東海岸に沿った落葉広葉樹林が本来の生育地である。アパラチア山脈の麓には40mを越えるユリノキの林がみられる。新大のユリノキはどれくらいの高さまで成長するだろうか。紙谷智彦（農学部）

## 編集後記

学生のための大学広報誌として、求められている情報を提供できたでしょうか？また、特集「総合大学としての新潟大学の魅力」のメッセージは伝わったでしょうか？昨年、はじめて編集委員会に学生委員が参画し、新大広報の充実が図られました。これからも学生の皆さんの編集委員会への参加を大いに期待しております。

（編集担当：谷口正之）

学生の立場に立ち、読む側にとって魅力的な言葉と表現を考えると日本語の難しさや味を改めて感じられた。編集に責任を持つということは読む側に誤解をまねく言葉をさけること、投稿者の意を素直に誌面にあらわすことは面白い役割でもあった。

教員中心の編集から学生参加型に移行することでますます充実した広報誌になることを期待したい。

（編集担当：藤野邦夫）

21世紀最初の新大広報をお届けします。「総合大学」としての新潟大学の魅力や、各学部、大学院の学生さん達から語ってもらいました。「自由」「出会い」「語り合い」など、同じことを考えている人が多いのにびっくりしました。みんなでもっと魅力ある新潟大学を目指して頑張りましょう。

（編集担当：山内春夫）

### 広報委員会第1部会

部会長	仙石 正和（学長特別補佐）	Tel 262-6751	sengoku@ie.
編集委員長	寺田 員人（歯学部）	Tel 227-2975	tera@dent.
委員	井山 弘幸（人文学部）	Tel 262-6573	
	石坂 妙子（教育人間科学部）	Tel 262-7116	ishizaka@ed.
	谷 喬夫（法学部）	Tel 262-6493	
	濱田 弘潤（経済学部）	Tel 262-6538	khamada@econ.
	石田 昭男（理学部）	Tel 262-6145	ishida@sc.
	山内 春夫（医学部）	Tel 227-2141	daba@med.
	川瀬 知之（歯学部）	Tel 227-2845	kawase@dent.
	谷口 正之（工学部）	Tel 262-6716	mtanig@eng.
	青柳 育（農学部）	Tel 262-6626	qingliu@agr.
	藤野 邦夫（医療技術短期大学部）	Tel 227-2362	fujino@clg.

事務局（学生部） Tel 262-7330 Fax 262-7515 gakusei@adm.

（E-mailのアドレスは、niigata-u.ac.jpの標記を省略しています。）

この広報は再生紙を使用しています。